

株式会社エージーピー 2015年3月期 決算説明会



株式会社 エージーピー

2015.05.26

会社概要	3
2014年度 業績	10
2015年度 業績見通し	21
中期経営計画(FY15~19)	26
(参考資料)	34

会社概要

- ◆ 商号 株式会社エージーピー／AGP CORPORATION
AGP (Airport Ground Power)
(日本空港動力株式会社から商号変更：2000年9月1日)
- ◆ 設立 1965年12月
- ◆ 本社 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号
空港施設第2総合ビル
- ◆ 資本金 20億3,875万円
- ◆ 主要株主 日本航空株式会社 (33.3%) 三菱商事株式会社 (26.8%)
ANAホールディングス株式会社 (20.0%)
- ◆ 従業員数 609名 (グループ合計2015年3月31日現在)
- ◆ 空港拠点 3支社、5支店、2出張所
成田空港、羽田空港、関西空港、新千歳空港、中部空港、
大阪空港、福岡空港、那覇空港、神戸空港、広島空港

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

長期ビジョン2025(骨子)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

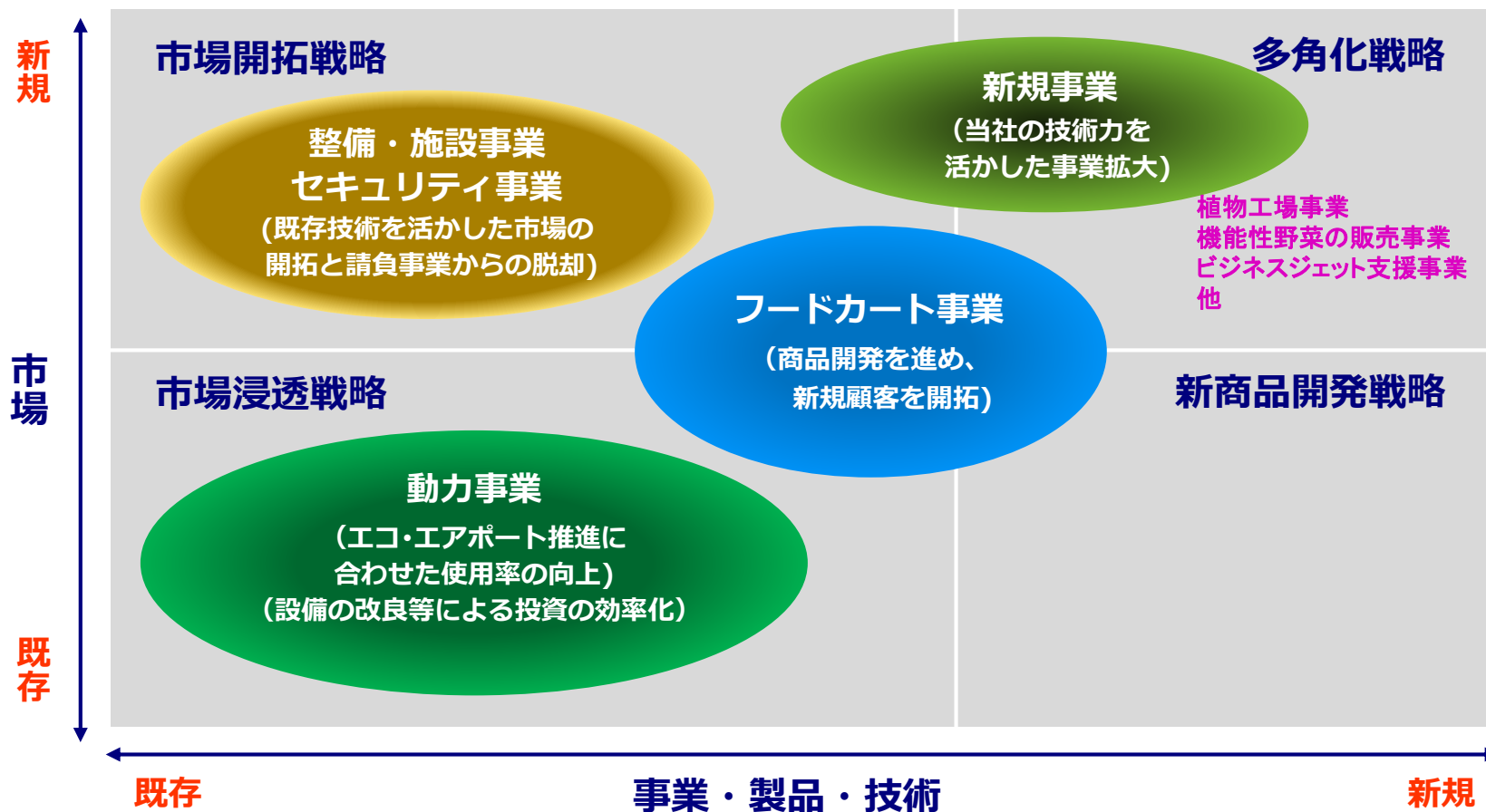
社会・経済環境の変遷と当社の歴史

年代	1960年代	1970~'90年代	2000年代	現在
【社会・経済環境】	高度成長期	高度成長の終焉	グローバル化の進展	失われた20年からの回復
	航空業界の急成長	バブル経済と崩壊	航空会社の経営難	規制改革の進展
【当社の歴史】	創業 (1965年)		株式上場 (2001年)	創立50周年 (2015年)
	空港インフラ事業の 基盤整備	空港整備計画に伴う 投資負担増		既存事業の収益構造 改革
	経済成長とともに 着実に成長	3プロによる急成長 (NRT・HND・KIX)	新事業(フードカート 事業)の展開	新規事業の開拓・ 展開
【連結売上高】	~2億円	~90億円	~100億円 (2005年度)	~110億円

2015年度は50周年を迎え、更なる飛躍のスタート元年

戦略マトリクス

- 営業力強化等による事業領域の拡大施策と既存事業の競争力強化・費用削減施策を両輪で推進します。
- 安定的な事業基盤の確立と成長領域への進出を図ります。



機械、電気・制御系の幅広い基礎知識・技能、専門資格を保有

- 国家資格（一部抜粋）
- 労働安全技能講習資格、特別教育受講、特殊運転免許証、メーカーライセンス（一部抜粋）

資格名称	保有者
電気主任技術者	48
電気工事士	409
電気工事施工管理技士	43
管工事施工管理技士	21
エネルギー管理士	23
ボイラー技士	147
高圧ガス製造保安責任者 (冷凍保安責任者)	289
危険物取扱者	327
X線作業主任者	113
消防設備士	55
建築物環境衛生管理 技術者	31
昇降機検査資格者	16
衛生管理者	31

資格名称	保有者
酸素欠乏作業主任者	293
有機溶剤作業主任者	85
特定化学物質等作業主任者	36
小型移動式クレーン 運転技能	157
フォークリフト運転技能	392
高所作業車運転技能	390
玉掛技能	288
足場組立作業主任者	91
ガス溶接技能	312
アーク溶接特別教育	415
研削といし特別教育	357
大型自動車運転免許	420
けん引自動車運転免許	36

資格名称		保有者
X-RAY X線手荷物検査装置 メーカーライセンス	L3 : VIS-108	16
	L3 : MVT-HR	3
	L3 : VIS-HR	4
	Smiths	10
	IHI	6
	Astrophysics	1
EDS 爆発物検知装置 メーカーライセンス	L3 : Examiner 3DX	4
	Reveal : CT- 80DR	7
ETDS 爆発物検査装置 メーカーライセンス	Smiths : 400B,500DT ,MMTD	6
	Morpho : Itemiser DX	33

個人平均資格取得数 : 10.7資格/人

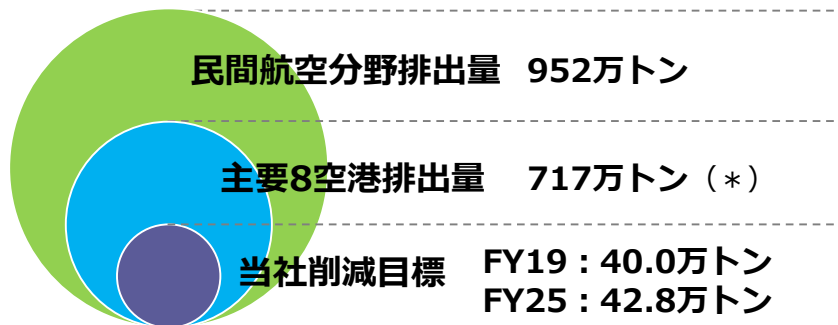
* 2014年12月現在

環境への取り組みと目標

GPU利用促進により、主要空港のCO2排出量の2015年度削減目標は30万トン以上

【中期期間目標】2019年度までに2014年度対比10.7万トン削減

<民間航空分野CO2排出量に対する当社削減目標>



(*) 航空分野排出量に発着回数比率を乗じた概算値

駐機中航空機の
アイドリングストップ!



<全事業分野における環境への取り組み>

動力事業

空港・空港周辺における更なる環境負荷削減策として

- 電気自動車 (EV) の導入促進と燃料電池自動車 (FCV) の研究
- 省エネ機材の促進や再生可能エネルギー等の新技術導入

整備・施設 ・セキュリティ事業

- 省エネ運転や省エネ部品の提案及び導入、部品交換回数の削減等
- CO2を削減する太陽光発電の保守業務への参画

フードカート事業

- 省エネ、省スペースが特徴のAGPフードカートの販売

新規事業

- 完全閉鎖型工場における無農薬、低生菌、無洗、長持ちの低カリウムレタスの生産



2014年度 業績概要

- 2014年度は更なる成長に向けた準備期間と位置づけ、「長期ビジョン2025」「中期経営計画(FY15-19)」を策定。
- 2014年度業績は対前年で減収減益となるが、経常利益段階では計画利益を確保。予定通り安定配当(9円)を継続。
- 空港ターミナル再編投資、新規事業など、企業価値向上に向けた投資を着実に実施。
- 自己資本比率は50%を超え健全な財務体質を維持。

2014年度業績サマリー

連結損益計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2013年度	2014年度	増減額
営業収益	11,315	10,671	▲644
営業費用	10,232	9,892	▲339
営業利益	1,083	778	▲304
営業利益率 (%)	9.6%	7.3%	▲2.3pt
経常利益	1,077	860	▲216
当期純利益 ¹	570	469	▲101

連結貸借対照表

(単位：百万円)

(百万円)	2013年度	2014年度	増減額
総資産	12,820	12,131	▲688
有利子負債残高	2,193	1,863	▲329
自己資本	6,293	6,758	+464
自己資本比率 (%)	49.1%	55.7%	+6.6pt
ROE (%) ¹	9.3%	7.2%	▲2.1pt

営業収益内訳²

(単位：百万円)

	2013年度	2014年度	増減額
動力事業	4,991	4,959	▲32
整備事業	2,893	3,028	+134
施設事業	1,721	1,534	▲187
セキュリティ事業	368	394	+26
フードカート事業	911	323	▲588
新規事業	-	43	+43
その他事業	428	386	▲41
合計	11,315	10,671	▲644

消費税増税の影響があったフードカート販売が対前年で大きく減収。動力事業では新型機(787)への供給率が伸び悩んだ影響などにより若干の減収。羽田国際線拡張や新規事業の先行投資に伴う償却費負担が増加。

自己資本比率50%以上を維持し、財務の安定性を確保

¹ (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)
 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示

2014年度業績サマリー(計画対比)

連結損益計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度 当初計画	2014年度 実績	増減額	特記
営業収益	11,078	10,671	▲406	動力▲187、フードカート▲277
営業費用	10,228	9,892	▲335	変動費(原材料費)▲257、固定費▲78
営業利益	850	778	▲71	
営業利益率 (%)	7.7%	7.3%	▲0.4pt	
経常利益	826	860	+34	受取補償金+106
当期純利益	489	469	▲19	税率変更に伴う繰延税金資産取り崩し▲48

2014年度業績は、動力事業収入とフードカート事業収入の計画未達などにより、期中での追加費用削減施策による利益改善を図ったものの、営業利益は対計画で▲71百万円。

但し、経常利益は対計画で+34百万円と計画利益を確保し、配当は当初計画通りの9円配当(配当性向26.8%)を実施する予定。

2014年度資金収支概要

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2013年度 ¹	2014年度	増減額
営業キャッシュフロー	1,354	1,265	▲89
投資キャッシュフロー	▲1,073	▲1,385	▲311
フリーキャッシュフロー	281	▲119	▲401
財務キャッシュフロー	▲545	▲439	+105
EBITDA ¹	1,853	1,688	▲165

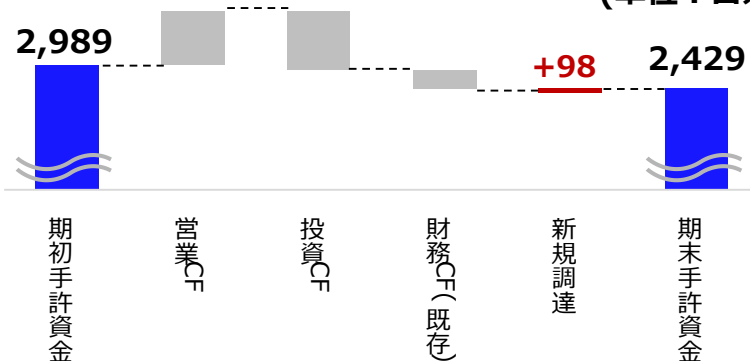
設備等の投資総額

(単位：百万円)

事業部	内 容	投資額
動力	成田空港第3ターミナル工事	45
	成田空港再編工事など	60
	福岡エプロン改造工事	24
	固定空調	100
	GPU ² 、ASU ³ など	147
新規	植物工場・栽培設備	302
	低加ワルムタ量産特許など	129
その他		85
合計 ⁴		893

(手元資金増減)

(単位：百万円)

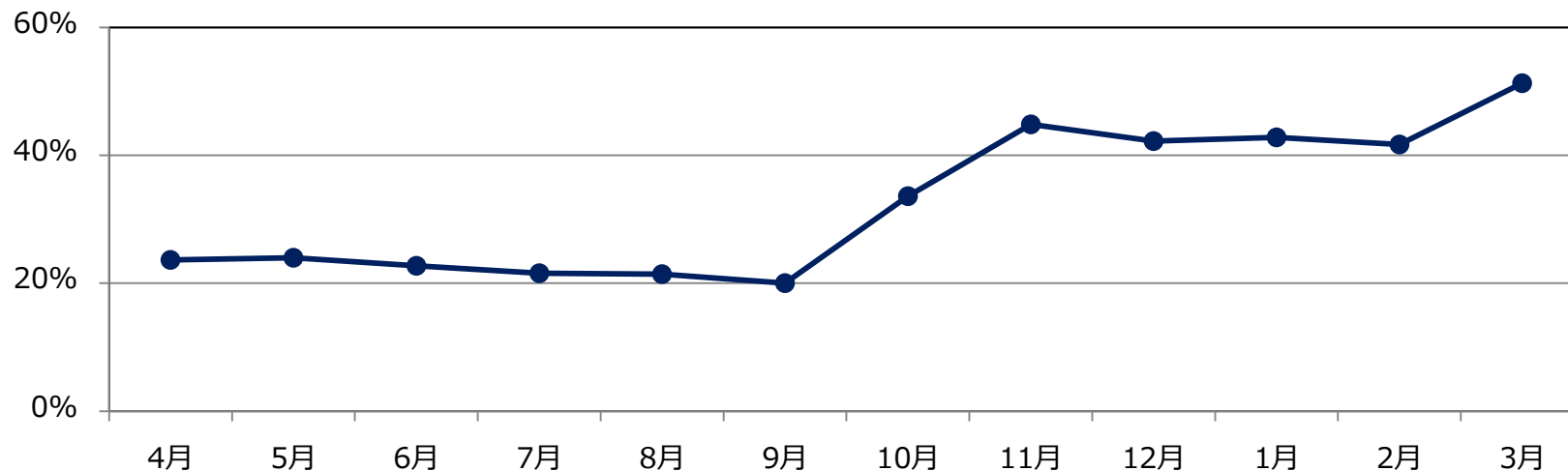


2014年度は概ね償却費の範囲内で投資を実施。手許資金を取り崩して新規借入を抑制。
→ 今後、成長戦略実現に向けた着実な投資と借入金の柔軟な活用を検討・実施予定。

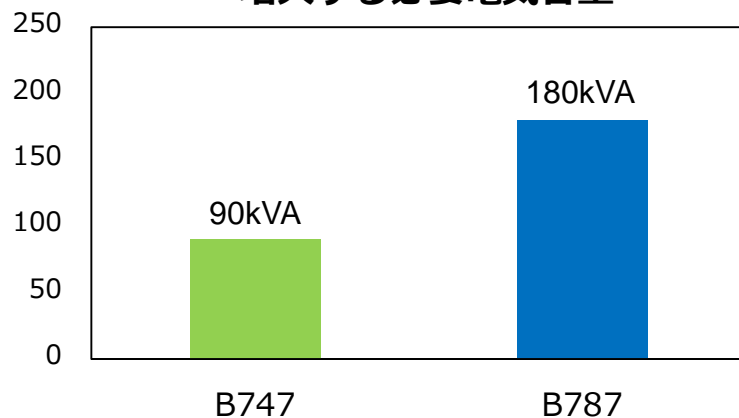
* 2014年度新規調達は新設子会社(p18)における資金調達(長期68+短期29)

1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
 2 GPU = Ground Power Unit(移動電源装置)
 3 ASU = Air Starter Unit(エンジンスター補助装置)
 4 設備等の投資総額と投資キャッシュフローの差 492百万円は未払金などの調整額(前期末残の設備投資未払金が多かったため)

FY14 B787供給率推移



増大する必要電気容量



オール電化機材への対応



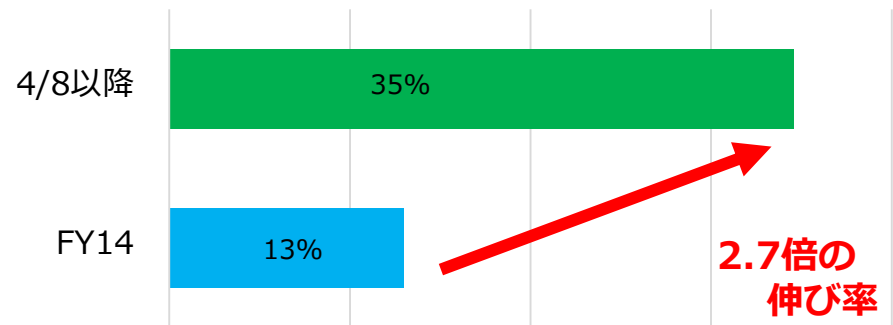
増大する必要電源対策として航空機用電源設備の大容量化 (180kVA機材の配備)

- 移動機材 : 6支店配備済 (合計20台配備)
- 固定設備 : NRT・HND設置済
全支店展開予定

Stay Timeの短いLCCでも使用しやすい設備の開発

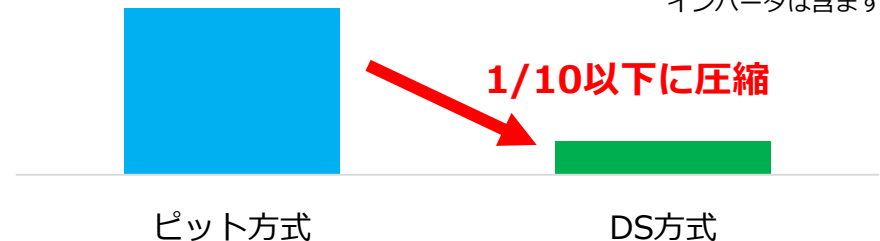


第3ターミナル供用開始前後の供給率の比較
[バニラ・エア(株)の供給率変化]



ピット方式とDS方式の投資額比較

※ 直接工事費のみの比較。
インバータは含まず。



- 小型機の専用Spotの優位性を活用したDS方式を採用 (AGP初)
- 簡易式設備による投資額の削減

※ DS方式：ダイレクトサプライ

省エネ・省スペースのフードカート AGP CORPORATION

国内シェアNo.1、約4000台の販売実績 (2015年3月末累計)
 旺盛なリピート需要 (リピート率85%)の取り込みと新規市場の開拓

エコ・省エネ

加熱した食器だけの電気を消費



メニューに応じて加熱時間・火力 (IH) を調整することが可能。温かいものは温かく、冷たい物は冷たいまま自然な食器レイアウトで食事を提供。

省スペース

機内食の技術を活かした
省スペース

女性でも扱いやすい大きさと軽さで作業効率と安全性を向上。厨房のカート占有面積が少なく、省スペースが特徴。

新幹線で搬送カート採用!
(2014年度95台)

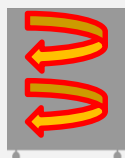


AGPの
フードカート



食器だけ
ピンポイント
加熱

熱風式カート



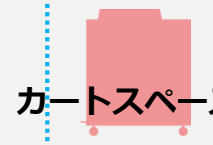
庫内全てを
熱風で加熱

1台1年の電気代
1/5 以下
AGPのフードカート



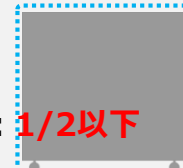
熱風式
カート

AGPの
フードカート



カートスペース: 1/2以下

熱風式カート



(当社調べ)

安全・安心レタスで笑顔の食卓づくりをお手伝い



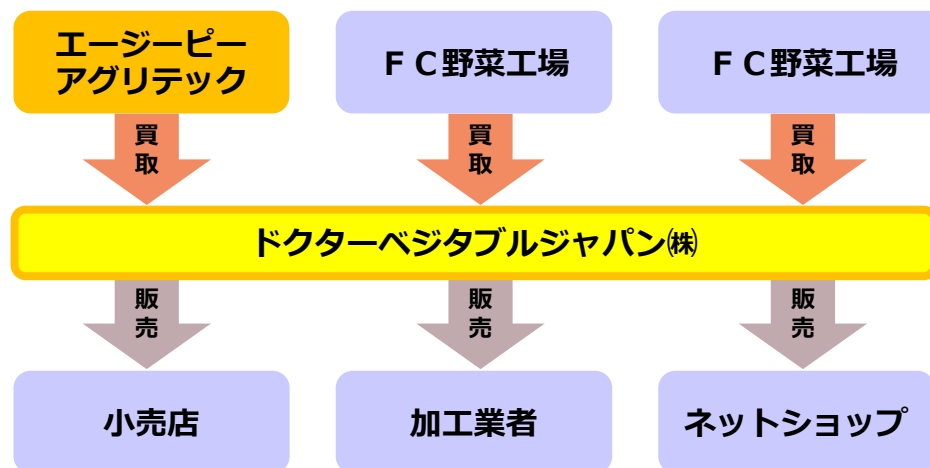
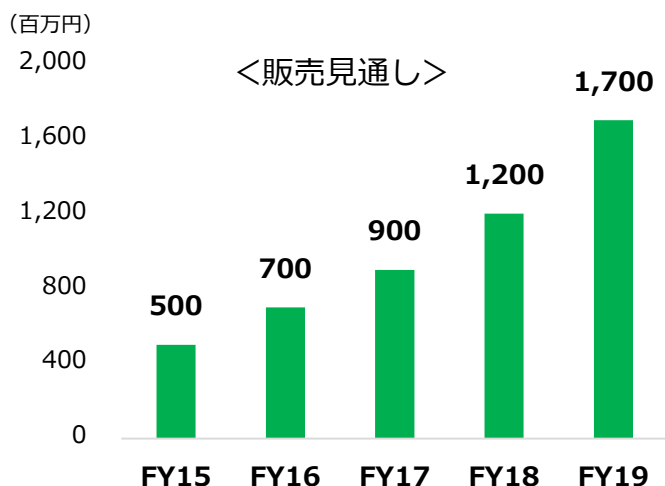
野菜の生育に必要なカリウム含有量を一般レタスの20%以下に削減。カリウム制限※のある方も安心して新鮮な生野菜をお召し上がりいただくことが可能。

※重い腎臓疾患をお持ちの患者さんは厳しいカリウム摂取制限を受けています

ドクターベジタブルジャパン(株)は、会津富士加工(株)より低カリウム野菜フランチャイズ運営事業の譲渡を受け、低カリウム野菜の国内外への普及を促進することを目的として2015年1月に設立。
(当社出資比率51%)



<http://www.drvegetable.jp/>





(株)エージーピーアグリテック

事業内容：機能性野菜Dr.Vegetableの生産

所在地：千葉県山武郡横芝光町

設立：2014年4月 営業開始：同年8月

生産規模：低カリウムレタス 4,000株/日

従業員：20名(パート従業員含む)

横芝光植物工場は

完全閉鎖型&完全人工光型植物工場です。

この工場生産するレタスは

- ・低カリウム（腎臓病患者の方も安心で）
- ・低硝酸態窒素（苦味・エグミが少なく）
- ・低生菌数（水洗い不要で鮮度が長持ち）

といった特徴があります。

現行 日産2,000株

→ 2015年度中に日産4,000株へ増産を計画



首都圏初、成田空港でビジネスジェット専用ハンガーを2月に開設

事業内容

- 駐機スペースの提供 (広さ7,655㎡)
※ プライバシーを確保
 - 地上ハンドリング業務、機材提供
 - ・ 航空機電源供給
 - ・ クリーニング作業 (機体内外)
 - ・ トーイング作業 (牽引移動)
 - ・ 給排水作業
 - ・ 整備用機材 (油圧機器等)
 - ・ その他 (諸手続、部品管理等)
- ※ 上記業務等を順次展開



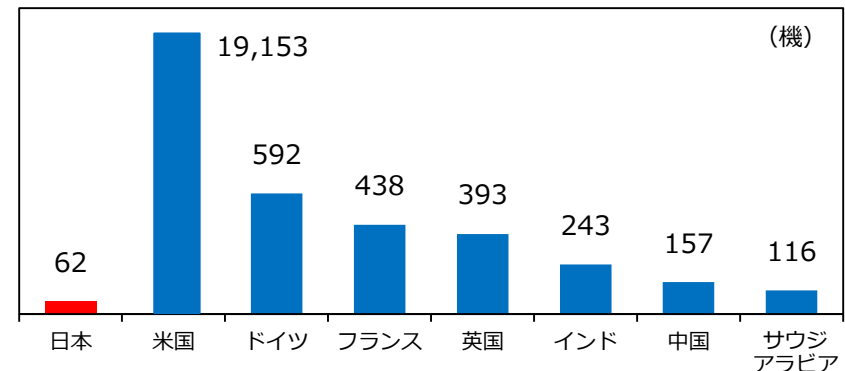
写真：AGPハンガー (格納庫)



写真：AGPハンガー (格納庫) 内部

月刊アライヴ2015年6月号掲載 深澤 明 撮影

ビジネスジェット機の国別保有機数 (2011年)



日本のビジネスジェット需要は諸外国と比較すると成長余地が大きい。
2020年東京オリンピック・パラリンピックは最大のビジネスチャンス！

2015年度 業績見通し

- 「中期経営計画(FY15-19)」の初年度として、営業利益段階での増収増益を計画。
- 既存事業の収支改善に加え、新規事業を拡大。
- 自己資本比率は50%以上を堅持。
- 配当性向20%程度を目安とした安定配当を継続。

2015年度業績見通し

連結損益計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度	2015年度 計画	増減額
営業収益	10,671	12,000	+1,329
営業費用	9,892	11,200	+1,308
営業利益	778	800	+21
営業利益率 (%)	7.3%	6.7%	▲0.6pt
経常利益	860	780	▲80
当期純利益 ¹	469	460	▲9

連結貸借対照表

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度	2015年度 計画	増減額
総資産	12,131	13,170	+1,039
有利子負債残高	1,863	1,760	▲103
自己資本	6,758	7,110	+352
自己資本比率 (%)	55.7%	54.0%	▲1.7pt
ROE (%) ²	7.2%	6.6%	▲0.6pt

自己資本比率50%以上を維持し、財務の安定性を確保

営業収益内訳³

(単位：百万円)

	2014年度	2015年度 計画	増減額
動力事業	4,959	5,220	+261
整備事業	3,028	2,855	▲173
施設事業	1,534	1,835	+301
セキリティ事業	394	415	+21
フードカート事業	323	650	+326
新規事業	43	715	+672
その他事業	386	310	▲76
合計	10,671	12,000	+1,329

動力事業の供給率向上、フードカート事業の需要回復、新規事業などにより、対前年で着実な増収を見込む。営業利益率の向上に向け、期中の収支改善を推進し、営業利益は8億円から更なる積み上げを図る。

1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益
2 (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)

* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

3 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示

2015年度資金収支見通し

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度	2015年度 計画	増減額
営業キャッシュフロー	1,265	1,348	+83
投資キャッシュフロー	▲1,385	▲1,042	+343
フリーキャッシュフロー	▲119	306	+425
財務キャッシュフロー	▲439	▲212	+227
EBITDA	1,688	1,692	+3

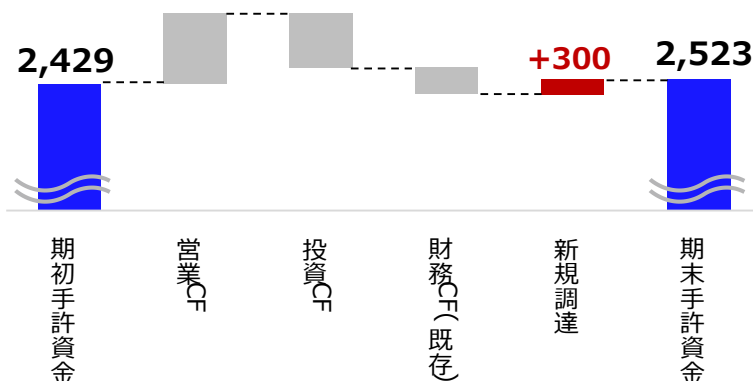
設備等の投資総額

(単位：百万円)

事業部	内 容	投資額
動力	成田空港工事	314
	福岡空港工事	138
	固定電源	150
	固定空調	121
	GPU	149
新規	冷房車	90
	その他	123
新規	ビジネスジエット関連	32
その他		13
合計 ¹		1,131

(手元資金増減)

(単位：百万円)



営業キャッシュフローの範囲内にて、
空港計画に合わせた事業基盤投資、
並びに成長戦略投資を実施する予定。

* 2015年度新規調達は金融機関からの借入を状況を見つつ検討・実施

1 設備等の投資総額と投資キャッシュフローの差 89百万円は未払金などの調整額

2015年度事業計画のポイント

FY14は成長戦略実行にあたっての準備期間

FY15より中期経営計画を実行

FY14の振り返り

FY15の目標と課題

経営計画

- ▶ 企業理念・長期ビジョン・中期経営計画の策定

- ▶ 「企業理念」・「長期ビジョン2025」・「FY2015～19中期経営計画」の浸透と実現に向けた具体的な取り組み

組織

- ▶ 本部制の導入などの本社組織改革
- ▶ 調達体制の強化策としての調達フットワーク推進(▲56百万円)

- ▶ 組織横断的な活動・環境への取り組み強化
- ▶ 調達プロジェクト活動の深化・浸透

既存事業

- ▶ 【動力】エコ・エアポートへの貢献と787電源供給体制の整備
- ▶ 【整備・施設・セキュリティ】提案型・総合サービス提供型ビジネスの展開
- ▶ 【フードコート】インカートッキングシステムの開発と市場投入準備

- ▶ 営業利益段階での増収増益の達成
- ▶ 営業利益率10%を目指し、更なる収支改善に向けた継続的な取り組みを実施

新規事業

- ▶ エージーピーアグリテック(8月)とドクターベジタブルジャパン(3月)の営業開始
- ▶ ビジネスジェット支援事業の開始(2月)

- ▶ 新規事業の売上高7億円
- ▶ 空港外売上割合10%以上

中期経営計画(FY15-19)

- 2019年度までに営業利益率10%以上、売上高150億円以上。(2025年度までに売上高200億円以上)
- 航空産業のイベントリスクに備えるため、2019年度までに空港外売上比率を20%以上。(2025年度までに30%以上)
- 自己資本比率は50%程度を確保。
- エコ・エアポートの実現などを通じた環境社会への貢献。

既存事業の基盤強化と成長事業領域への進出による企業価値向上

成長戦略の推進

収益力の拡大

営業利益率

- 増収増益
- 営業利益率10%以上
- 技術力・営業力の強化
- コスト削減施策の推進
- 人材育成・教育体制の充実

航空イベントリスク耐性強化

空港外売上比率 自己資本比率

- 空港外売上比率の向上
(FY14 5%→FY19 20%)
- 新規事業領域の積極的な展開
- グループ会社のグループ外売上
拡大に向けた取り組み推進
- 自己資本比率50%以上

環境社会への貢献

CO2排出量

- エコ・エアポート構想への参画
- GPU施設使用率向上による
CO2排出量削減
- 環境への取り組み活動内容の
社内外への情報発信

各事業戦略と重点課題

「長期ビジョン2025」「中期経営計画(FY15-19)」の着実な実施

事業戦略

重点課題

動力事業

【市場浸透戦略】

- 供給率が低い本邦航空会社、外航、LCCに対応し、中期期間中に供給率を62.5%から83%へ向上させ、営業利益率を改善

- 低供給率航空会社への営業強化とLCC向けビジネスモデルの検討・構築
- 各空港ターミナル改修計画への対応
- 設備投資の見直しによる投資費用の抑制

整備事業・ 施設事業・ セキュリティ事業

【市場開拓戦略】

- 空港外への展開
- 提案型・総合サービス提供型ビジネスモデルへの転換による営業黒字の定着

- 提案型営業の展開と空港外業務獲得に向けた営業力強化
- 高齢者などのリソース活用によるコスト競争力強化
- 外部リソース活用による空港外業務展開の推進
- 「支社支店網を活かした営業」と「支社支店間の連携強化」

フードコート事業

【新商品開発・市場開拓戦略】

- リピート需要の確実な取り込み
- インカートクッキングシステムの市場投入
- サ高住¹などの新規のお客様の開拓

- 支社支店網を活用した営業・アフターフォロー体制²の確立
- 製造パートナーとの連携による増産体制の確立と生産体制の効率化

新規事業

【多角化戦略】

- 技術力を活かした成長領域への積極展開と新規事業の早期経営安定化

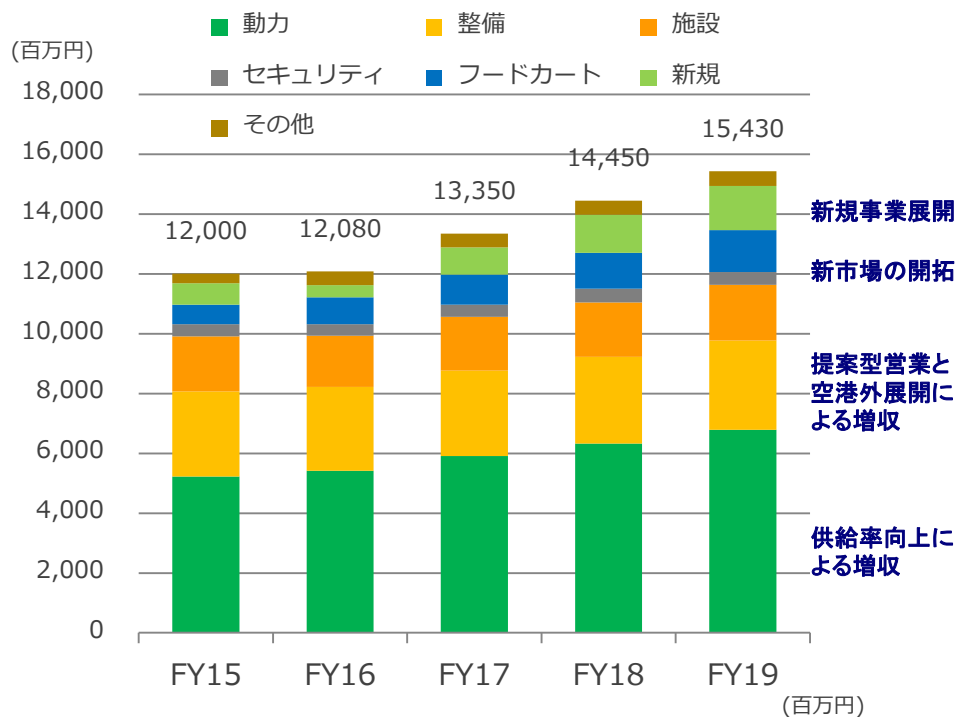
- AGPAフル生産体制確立とDrVJによる販路拡大・赤字縮小
- ビジネスジェット支援事業におけるグラハン業務領域の拡大
- 人材育成を目的とした教育事業の展開検討

1 サービス付高齢者向け住宅

2 SSE(Sales & Service Engineering)体制 → FY15は大阪空港支店に展開

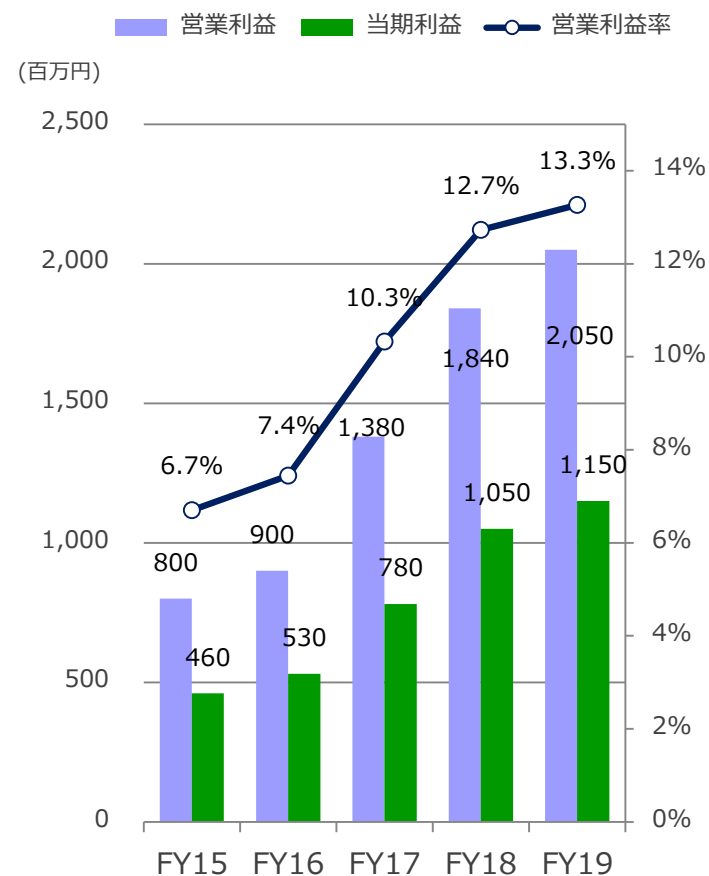
FY15-19 収支計画

<売上高>



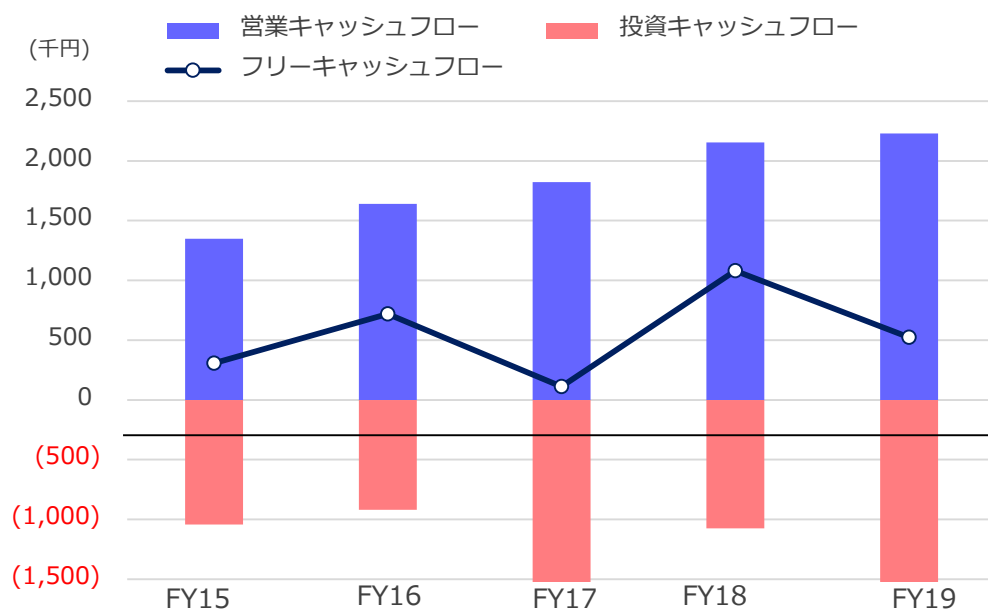
	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
売上高合計	12,000	12,080	13,350	14,450	15,430
(動力事業)	5,220	5,423	5,911	6,325	6,787
(整備事業)	2,855	2,795	2,863	2,900	2,985
(施設事業)	1,835	1,714	1,797	1,821	1,869
(セキュリティ事業)	415	391	404	461	423
(フードカート事業)	650	900	1,000	1,200	1,400
(新規事業)	715	398	908	1,275	1,475
(その他)	310	462	469	470	493

<利益>



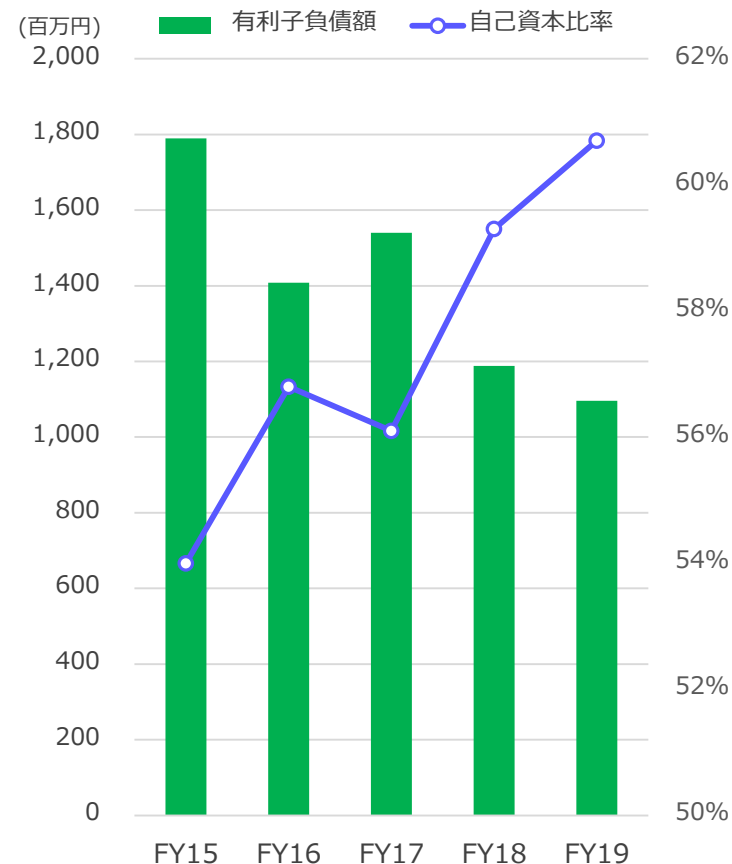
FY15-19 資金計画

<Cash Flow>



	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
営業キャッシュフロー	1,348	1,640	1,820	2,150	2,230
(減価償却費)	880	936	970	959	955
投資キャッシュフロー	-1,042	-920	-1,710	-1,070	-1,710
財務キャッシュフロー	-212	-530	-40	-570	-330
(新規借入)	300	0	500	0	200
キャッシュ増減	94	190	70	500	200
フリーキャッシュフロー	306	720	110	1,070	520
ROE	6.6%	7.3%	10.0%	12.3%	12.2%
営業利益率	6.7%	7.4%	10.3%	12.7%	13.3%

<有利子負債額>



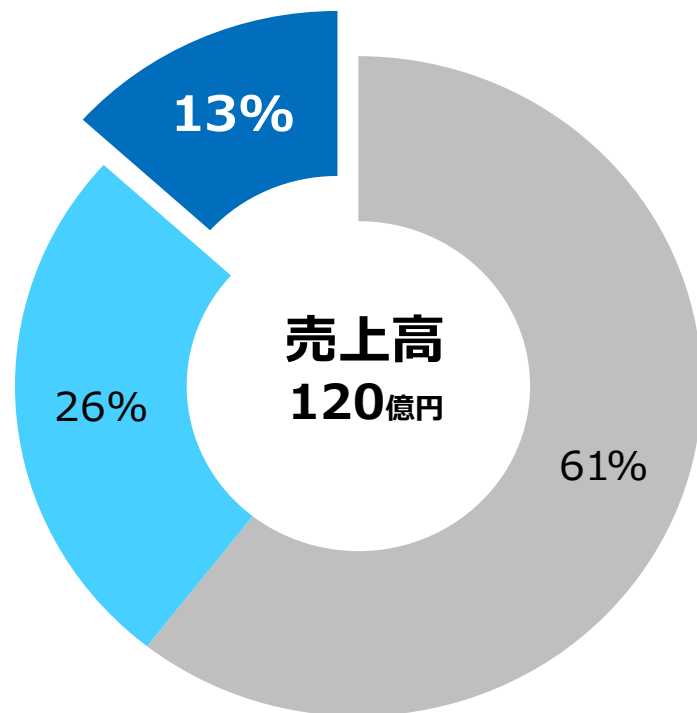
	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
有利子負債額	1,790	1,408	1,540	1,188	1,096
自己資本比率	54.0%	56.8%	56.1%	59.3%	60.7%

FY19空港外売上割合

航空会社・空港会社などの既存のお客様以外の取引(フードコートや新規事業など)を拡大

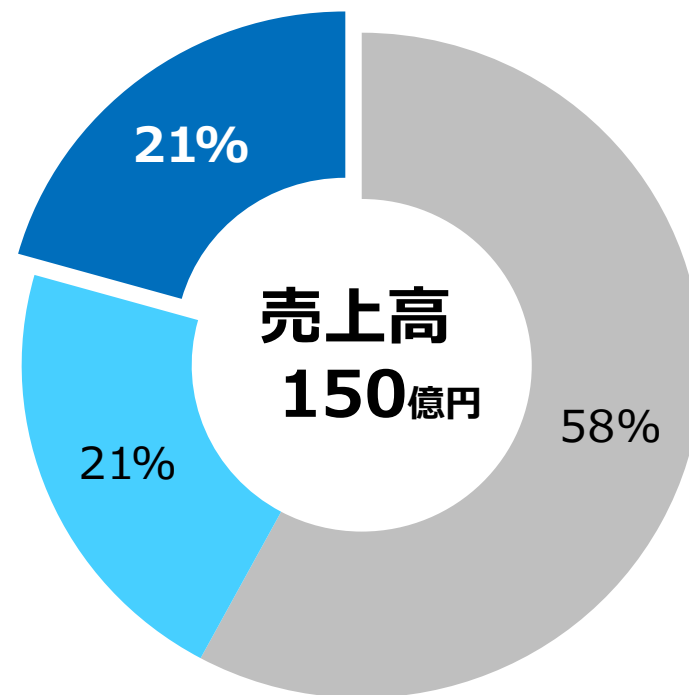
<FY15売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



<FY19売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



グループ経営数値目標

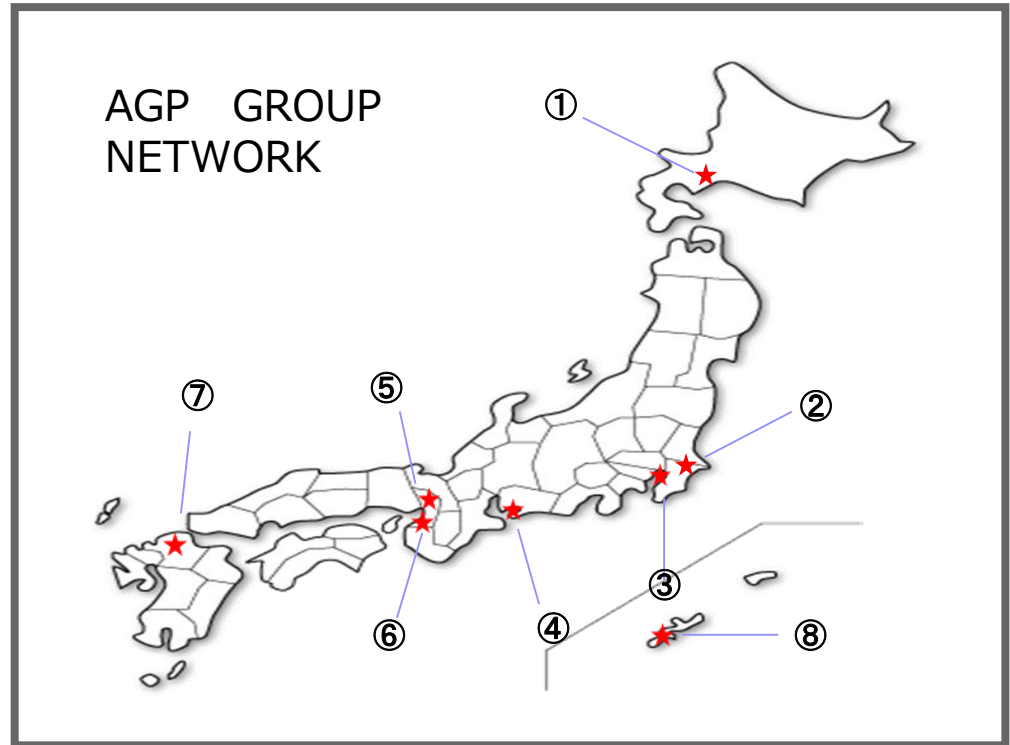
	2019年度目標値	2025年度目標値
連結売上高	150億円	200億円
連結営業利益率	10%以上	
自己資本比率	50%以上	
ROE	10%以上	

(参考資料)

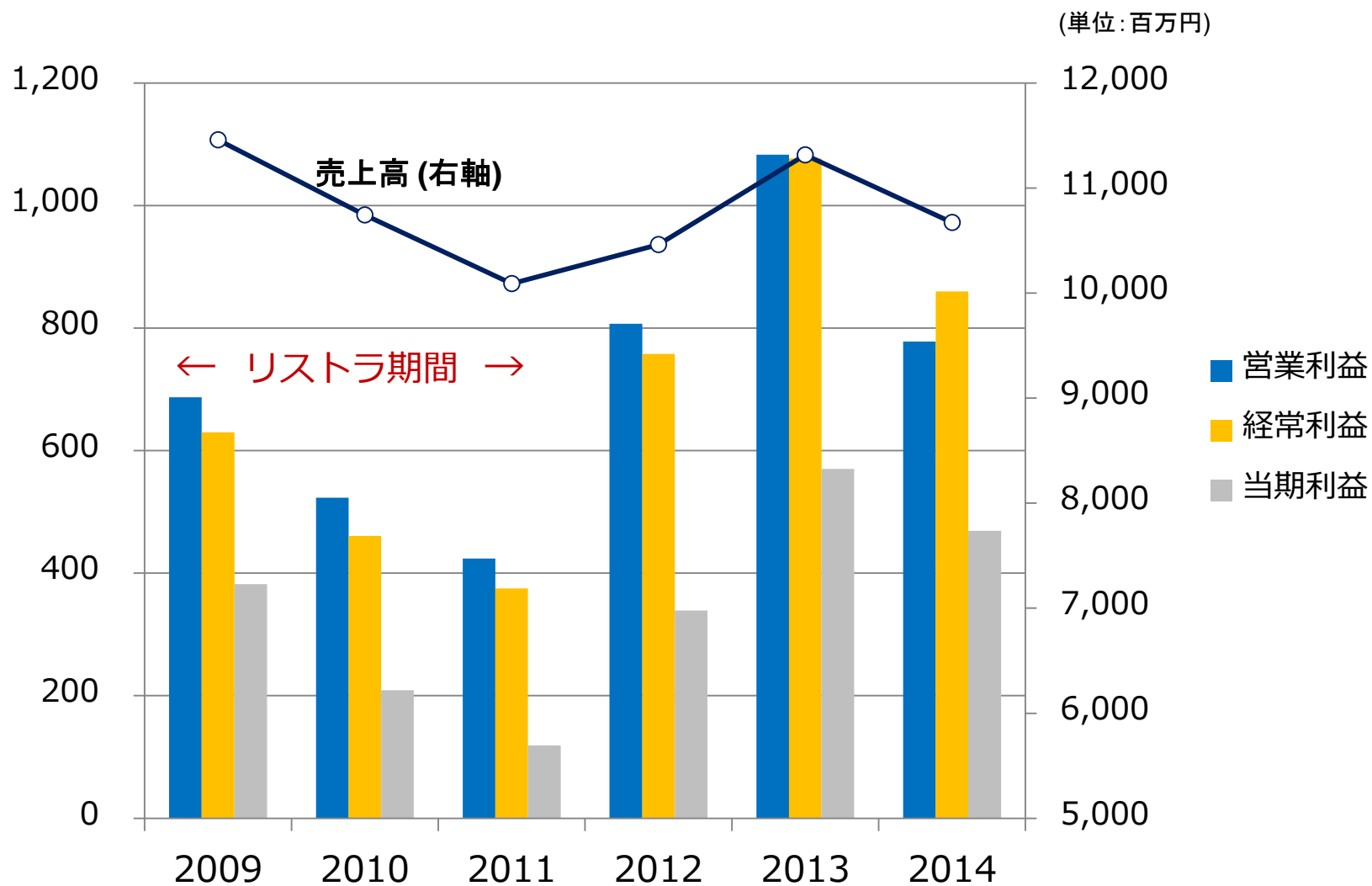
24時間体制の充実ネットワーク

- ① SPK (千歳空港)
- ② NRT (成田空港)
- ③ HND (羽田空港)
- ④ NGO (中部空港)
- ⑤ OSA/ITM (大阪空港)
- ⑥ OSA/KIX (関西空港)
- ⑦ FUK (福岡空港)
- ⑧ OKA (那覇空港)

主要 8 空港の営業拠点から
日本全国をカバー



過去の業績推移



動力設備の展開状況

動力設備一覧（2015年5月1日現在）

（台）

	千歳	成田	羽田	伊丹	神戸	関西	福岡	広島	沖縄	合計
固定電源	16	56	110	24	4	54	21	4	13	302
固定空調	-	28	65	4	-	41	-	-	13 ※1	151
電源車	4	31	14	7	-	11	13	2	-	82
ATV車	10	6	2	4	-	2	7	-	-	31
スターター車	2	-	-	3	-	2	3	-	-	10

※1：沖縄の外部電源式エアコン車は固定設備としてカウント。

環境への取組み事例

● 各空港の『エコ・エアポート活動』や地域環境活動への貢献



成田国際空港株式会社主催
「エコキッズ・クラブ」エコツアー参画



羽田空港周辺草刈り活動



関西国際空港内清掃活動

● 各事業分野での主な省エネ、環境負荷低減への取組み



● 空港・空港周辺における更なる環境負荷削減策として
GPUの省エネ機材の配備・電気自動車（EV）の導入促進



● 省エネ、省スペースが特徴の
AGPフードカートの開発販売



● 完全閉鎖型工場における無農薬、低生菌、無洗、長持ちの低カリウムレタスの生産

当資料に記載されている事業名は、弊社の連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティー事業、フードカート事業、新規事業、その他をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 総務・IRグループ



電話: 03-3747-1631

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)